整理番号㊼-1

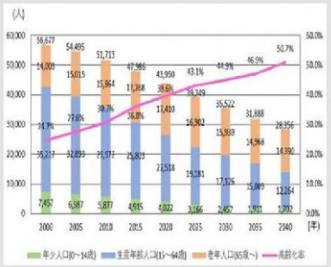


日本全国が人口減少に直面する中、氷見には年間233万人もの来訪者を引き寄せる圧倒的な「引力（人流）」があります。また、Himi-Bizやみらいエンジン、まちなかのリノベーション拠点など、新しい挑戦や多様な生き方を受け入れる温かい風土も育ちつつあります。氷見にはすでに、移住を惹きつける「良質な資源」が数多く存在しているのです。
最大の課題は、それらが点在し、結びついていない・気づかれていないことにあります。人々を無理に捕まえるのではなく、自然な流れの中で街の資源と接続し、共鳴を持続的に生み出す。新たな点の箱を作るのではなく、**まち全体を一つの巨大な「網」に見立てた新しい都市生態系**を提案します。

０１_氷見市の現状と課題

現状：止まらない人口減少

第３期氷見市人口ビジョンでも喫緊の課題として示されているように、氷見市の最大の危機は「人口減少」によってまちの持続可能性が失われつつあります。特に、若年層の進学や就職に伴う転出に歯止めがかかっておらず、２０歳代前半においては、**女性の転出数が男性の約２倍**に上るという深刻な実態となっています。一度県外・市外に出た若者や女性が３０代になっても戻ってこない傾向が顕著です。



人口減少の課題１：「職」

若者や女性が氷見市から転出し、戻ってこない原因の一つとして「職」の課題が挙げられます。地域内における企業の規模や絶対数が少なく、多様化する現代のキャリア志向や自己実現の欲求を満たす受け皿が不足しています。やりがいや成長機会を求める層にとって、既存の産業構造だけでは**「氷見で働く必然性」**を見出しにくく、結果として都市部への流出を招いています。

人口減少の課題２：「心」

より根深い課題は、地域社会の「**風習**」にあります。富山の共働き世帯割合は55.9%（全国トップクラス）と極めて高いです。しかし「ジェンダー平等」や「女性の自己実現」と同義ではなく、「仕事を持ちながら、子育て・家事・介護も担うべき」という暗黙の役割分担があり、**女性自身の生き方や夢を二の次とする「アンコンシャス・バイアス」**が存在し、この息苦しさこそが、女性の定住・回帰を阻む最大の心理的障壁となっていると考えらます。

０２_氷見市の強み

【１】233万人の来訪者

市内には年間約233万人もの来訪者が訪れており、観光拠点である「ひみ番屋街」だけでも年間約122万人を集客する県内有数の観光地となっており、氷見駅も53万人もの乗降者がいます。この膨大な数の来訪者（交流人口）は、氷見の魅力を知る「関係人口」、ひいては将来的な「定住人口」へと繋がる非常に大きな母集団であり、この膨大な来訪者数は、いわば巨大な**「回遊魚の群れ」**と言えます。



【２】「職」：働き支援

「職」の課題に対する強力な解決策として、氷見市ビジネスサポートセンター「Himi-Biz」が機能しています。起業家や中小企業を対象に、業種を問わず「何度でも無料で相談・伴走する」支援体制を敷いており、既存企業に依存せず自ら**「新しい職・生業」を創出する土壌**が育ちつつあります。これは単なる就労支援を超え、個人の自己実現や夢を具現化するためのエンパワーメント拠点であると考えます。

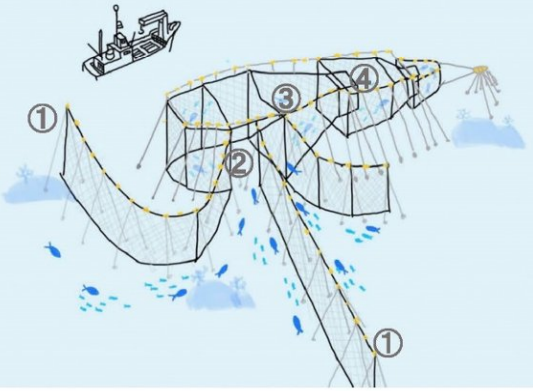
【３】「心」：受け入る風土

「心」の閉塞感を打破する兆しは、移住定住促進拠点「氷見市ＩＪＵ応援センター・みらいエンジン」に見られます。蓄積された移住者の声にも表れている通り、氷見には**外からの新しい人、多様な価値観、新しいコトを寛容に「受け入れる風土」**が確かに芽生えており、古い慣習（バイアス）とは対極にあるこのオープンなコミュニティを可視化し、来訪者と接続させることが、定住への心理的障壁を下げる鍵となります。

０３_ありたい姿

氷見のアイデンティティを空間へ：定置網の理念

氷見のアイデンティティの根幹は"越中式定置網漁"にあります。この漁法は、資源を一網打尽にする底引き網とは異なり、海流を読み、魚が障害物を避けて沖へ向かう習性を利用して網の奥へと自然に誘導します。そして、最終的な箱網に入った魚のうち必要な分だけを持続的に水揚げし、未成魚は海へ還すという、生態系と共生する極めて高度なシステムです。また、網自体が魚礁の役割を果たし、新たな生命を育む機能も持ち合わせています。「**強制せず、自然の流れを作り、必要分を獲る。**」この持続可能なメカニズムこそが、これからの氷見のまちづくりを支えます。



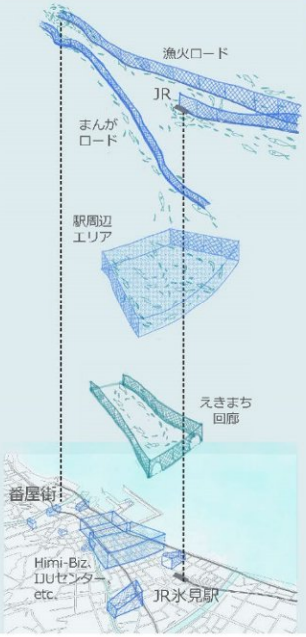
０４_計画コンセプト

定置網の構成

- **①垣網**：魚群を誘導する網
- **②運動場**：誘導された魚が泳ぎ回るスペース
- **③のぼり網**：運動場から箱網へ魚を導く通路
- **④箱網**：魚を閉じ込める場所。出にくい

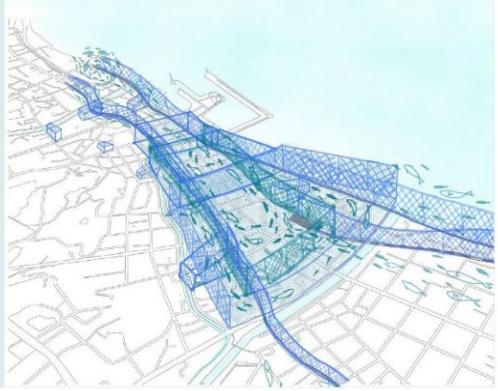
定置網型の都市

- **1 垣網**：来訪者を**まちに誘導する**インフラ・仕組み
- **2 運動場**：来訪者が**地域と繋がり、知る**スペース・仕組み
- **3 のぼり網**：**魅力ある暮らしに誘導する**交通網・仕組み
- **4 箱網**：**いたくなる、暮らしたくなる**場所・制度



定置網型都市：回遊から定着の変換システム

この定置網の構造を、氷見駅を起点とした都市空間に実装します。鉄道や主要道が【垣網】の役割となり、来訪者が通過・到達します。次に【運動場】となる体験拠点やゲストハウスで、来訪者はストレスなく地域の日常や人々と交わり、共感を深めます。さらに駅と街の境界を溶かすインフラ【のぼり網】（ヒミカ道や遊歩道）が、まちの深部へと導きます。 そして最終地点である【箱網】（暮らしが見つかる施設）において、古いバイアスから解放された働き方・暮らし方を発見します。**来訪者の僅か0.5%でも持続的に移住へ変換**できれば、氷見は豊かに自走し続けます。



整理番号㊼-2

1 垣網フェーズ

来訪者をまちに誘導するしくみ

ひみ番屋街・氷見駅から来訪者を誘導する



まちに人の流れをつくる



ひみ番屋街と氷見駅から漁火ロード・まんがロードに誘導

取り組みを活かす

①富山氷見高等学校の活動

HIMIco-bridge

氷見高校の生徒が運営する、地域と学びをつなぐ無人店舗プロジェクト

ひみ番屋街・氷見駅への進出

H：既存店舗　H：新規店舗

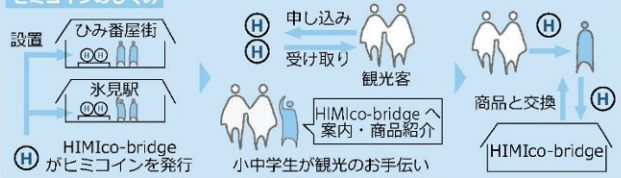
②氷見市立朝日丘小学校
氷見市立南部中学校の活動

校区のお年寄りや地域の福祉施設の入居者との触れ合い

観光客との触れ合い活動

ヒミコインの導入 Ⓗ

ヒミコインのしくみ



運営体制



2 運動場フェーズ

来訪者が地域と繋がり、知るしくみ

漁業・接客・調理を学ぶ宿



働いて、泊まって氷見を学ぶ

氷見駅周辺は宿泊施設が少ない高岡市など周辺地域に流出

①氷見に滞在することで、食や暮らしを体験するプログラム

②氷見に滞在する付加価値をつける

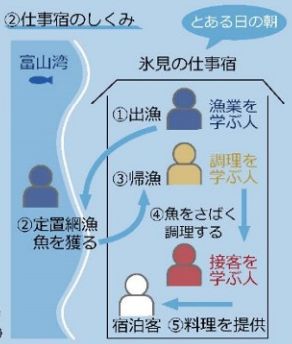
「氷見の仕事宿」の導入

氷見の仕事宿

①滞在パターンの選択



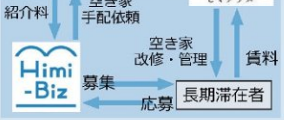
②仕事宿のしくみ



仕事宿 平面図



運営体制①



運営体制②

長期滞在者の宿泊状況で宿泊プランが変化

漁業を学ぶ人	調理を学ぶ人	接客を学ぶ人	○：滞在している ×：滞在していない
×	○	○	朝夕食付きプラン
○	○	×	レア魚料理付きプラン
×	×	×	素泊まりプラン

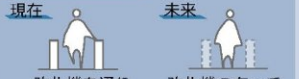
3 のぼり網フェーズ

魅力ある暮らしに誘導する交通網・しくみの整備

氷見駅のホームの延伸



変化する駅の形態



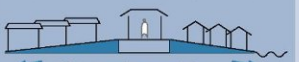
将来的には、駅とまちがシームレスにつながる

変化するヒミカの形態



・免許所持者のみ　・自動運転化
・3 時間の利用制限　・ヒミカが行き交う

ホームを延伸する



駅とまちをつなぐため、氷見駅のホームを延伸する

駅からまちへ人の流れをつくる「ひみの駅まち回廊」を整備

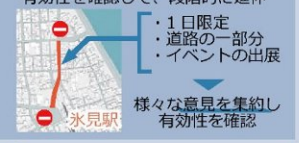
ひみの駅まち回廊



回廊を遊歩道化し、ヒミカ専用道路を整備

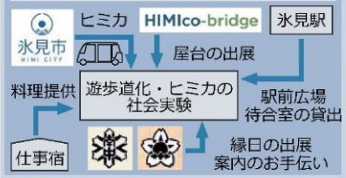
延伸の実証実験

遊歩道・ヒミカの社会実験を行い、有効性を確認して、段階的に延伸



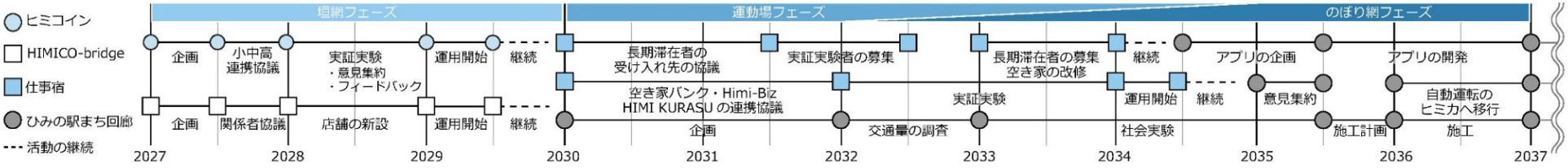
様々な意見を集約し有効性を確認

運営体制



自動精算のしくみ





整理番号㊼-3

4 箱網フェーズ

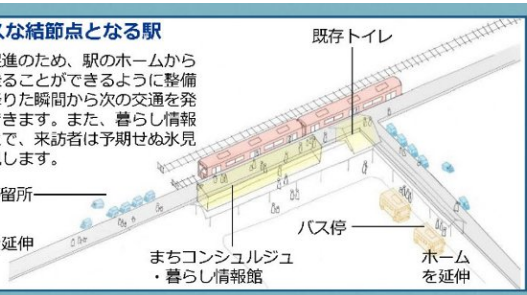
既存の環境と繋がり、巨大な網がまちをひとつにする。

のぼり網（駅まち回廊やヒミカ）によって導かれた来訪者が行き着く「箱網」は、まちの資源がひとつの生態系として連動する、定着のための空間です。駅からシームレスに繋がる交通網により、人々は自然な流れでまちの深部へと入り込みます。そこには「働く」「住む」「子育て」といった、自己実現のための選択肢が凝縮されています。これまで点在していた魅力は巨大な網によって結ばれ、人が行き交う網は新たな「魅礁」となって、持続的な賑わいと出会いを創出します。**市外の人々と多様な価値観を寛容に受け入れる風土が交わることで、まちは古いバイアスから解放**されます。無理に囲い込むのではなく、居心地の良い回遊の中で自然と「ここにいたい、暮らしたい」という共鳴を引き出します。



■シームレスな結節点となる駅

ヒミカの利用促進のため、駅のホームからシームレスに乗ることができるように整備します。駅に降りた瞬間から次の交通を発見することができます。また、暮らし情報を併設することで、来訪者は予期せぬ氷見の暮らしを発見します。



「住む」を発見する施設
「働く」を発見する施設
「子育て」を発見する施設
NEW 機能追加/新設する施設
ホーム遊歩道、ヒミカ道
主要交通路(自動車、電車)
ヒミカ周遊ルート(一般道)
H H ヒミカコイン利用店舗
H ヒミカコイン設置場所



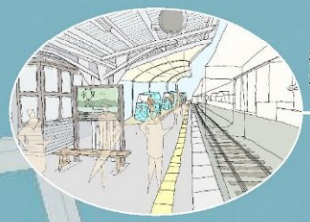
■氷見の海に出会う

回廊は海辺にも繋がり、立山連峰の風景が見え、氷見浜を身近に感じ、自然の傍の暮らしを感じます。



■職業宿で氷見の暮らしを感じる

その時宿にいる人によってプランやサービスが変化し、何度も来たくなる宿となります。



■ヒミカを発見する

列車から降りたその瞬間からヒミカが見えており、続いているホームとともに人の流れを作りだします。

■Himi-Bizがみつかる

来訪者や市民は、氷見市ビジネスサポートセンター(Himi-Biz)を目にし、氷見で夢を実現する未来に触れます。

■魚礁ができ、まちに人気があふれる

定置網に漁礁ができるように、網の周りに人の流れが生まれ、人気ができることでまちが活気づいていきます。

■空き家に出会う

サイトに掲示するだけなく紹介スポットとして、「こんな良い家が？」と気つき氷見に住むきっかけになります。